



社会新報 (岡山県連合版)

2014年5月1日
(毎月1日発行)

社会民主党全国連合機関紙宣伝局(毎週水発行)
〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1
TEL.03-3592-7515 1部180円/月700円/年160

岡山市北区弓之町5-7 Tel.086-226-1234

発行責任者 武本恒夫

http://www.sdp.or.jp/okayama/index.html e-mail: sdp_okayama@helen.ocn.ne.jp

長島"愛生園"への旅

「ハンセン病患者隔離の島」を、隔離政策の実態や差別、偏見の歴史からの教訓を後世に伝えるために、「世界遺産登録」の運動が広まっている。戦前から1945年頃特效薬が完成することができてなお1996年まで、国の隔離政策と差別の歴史であった。5月の春のひと時に、瀬戸内に浮かぶ「長島愛生園」を訪れ、語り部の話しに耳を傾け、歴史と運動を学びあおう

日程 5月27日(火) 13:00~16:00
社民党11:00発 車に乗り合せ
参加費無料 連絡先086-226-1234
昼食は、瀬戸内の陽を浴びて、広大な塩田跡地を展望しながら(各自負担・一本松レストラン利用、または各自持参)

「特定秘密保護法」廃止を求め署名第一集約(4月末456筆 みなさんの理解と努力をありがとうございます。引き続き取り組み(6月末/月切)保護法を廃止しよう。

常任幹事会は、福島代表のあいさつの後、県連合大会を総括、「日常の支部活動の悩みや報告・交流が欲しかった。そのことが各支部活動に刺激となるのであって、民主主義のセシモノーではない」と、

「見える社民党」・「支部組織の活性化」を具体化した。また、大会方針を実践すべく「見える社民党」「支部組織の活性化」で、5区支部連

社民党岡山県連合の構成	
県連合大会	規律委員会③
県連合常任幹事会	会計監査②
県連合代表① 福島	選挙対策委員会
県連合副代表① 井上	自治体委員会
県連合幹事長② 武本	総務・機関紙委員会
副幹事長② 矢吹・野崎	財政事業委員会
県連合常任幹事①	労働・平和県民委員会
顧問団会議⑥	女性・青年委員会

2015自治体議員選挙岡山本部を設置
大会特別決議がされた来春の統一自治体選挙では、岡山市議選に向けた1・2区支部の集中議論など、予定候補者選出の努力が報告された。決定までには至っていないが、県連合あげての取り組みを確認中間選挙を含めた自治体選挙闘争本部(本部長・福島代表)の設置を確認した。

生活破壊の消費増税と労働の規制緩和 脅かされる平和に社民党を全面に

社民党岡山県連合は4月20日、遅れていた第一回常任幹事会を開催、新しく常任幹事に選出された宮原領平氏を女性・青年委員長にするなど、県連合の新しい執行体制を確認、また顧問に谷村・森・松本・岡本・藤田の各氏に要請、若い力に期待し新しい体制でさあ出発(武本)

連合岡山は4月26日、県中央ミーティングを岡山ドームで開催。青天の下、子ども連れが目立つ会場前で社民党は、「祝メーデー」消費税引き上げ・雇用ルール改善・戦争する国への「三つのNO!」と集団的自衛権の使用容認反対を訴えるピラ一千枚を配布し、



岡山では4月22日、毎月1回定例開催の1・2区党員会議を開催。岡山市議選に向けた取り組みで白熱議論、全党員参加で議論を引き継ぎ、全力を挙げることを確認した。また、県連合の方針を受け、県内ミーデーでのピラ配布や街宣車の運行、5月3日憲法記念日に街頭でのピラ配布などの取り組みを決定、これらは若い党員からの積極的な行動提起で実現となった(野)

若い党員が積極的に行動を提起

岡山1・2区支部党員会議(4/22)

岡山駅前前で党定例街宣を行い、特定秘密保護法廃止を訴えた。党の活動の外、地域の民主諸団体の活動にも積極的に参加している(23日JR福知山線事故9周年集会・国労、25日、おかやま労働安全センター総会・講演会など)

旭川河川敷メーデー会場でも同様にピラ配布で訴え

歴史的発見か「純ミス」から「改悪」悪意のねつ造と劇的展開のSTAP騒動。果たして何が正しいのか、「ゴーストライター騒動」に似て科学の世界も社会的価値よりメディア受けする話題性が支配か

「大和ミ」に入るとすぐ1/10スケールの巨大な大和の姿が迫る。その前で親子連れが記念写真を撮るなど、大和への賛美が中心で、大和最後の乗員の写真は階級で大きさが違い、そこに戦争の惨禍人間の顔が見えない。原爆資

5月13日(第2火) 18時
5月16日(第3金) 18時
※いずれも党県連合会議室

正面からの議論活動

5月1日 岡山・津山・新見各メーデー会場ピラ入れ
5月25日解放共闘上映会13時 岡山オルガホール
5月27日長島愛生園見学研修

料館を観たあとの想いをあえて挙げれば人間への畏敬の受け止めか▼科学技術は人間社会の今と未来の姿を示しても決定・支配するものではない。しかし科学を支配するのは人間だ。支配すべきに支配されてはならない。STAP問題で問われるのは科学的誠実さである▼政治は社会科学なら、「武器輸出三原則」を「自衛装備移転三原則」と言い変えるなど平和への誠実さなど微塵もない。「あやまち」への悪意の糊塗である▼今月3日は憲法記念日。改憲への動きが強まっている。「積極的平和主義」「集団的自衛権の行使容認」など、「戦争のできる国づくり」への道が強められ、戦後民主主義がなし崩しの危機にある。しかし、これも、格差・雇用・社会保障など社会の矛盾への「あせり」の反映でもある▼私たちは、「戦争をさせない」行動を更に強めよう。これこそ人間への科学的誠実さの態度である。

2014.5.1(の) 投稿歓迎します